

柿澤翔さんが日本鉱物科学会 2017 年度年会・総会で研究発表優秀賞を受賞  
(広島大学特別研究学生 (D2)、日本学術振興会 特別研究員 (DC1)) (指導教員：井上徹教授)

日本鉱物科学会 2017 年度年会・総会 (2017 年 9 月 12 日～14 日、愛媛大学で開催) において、井上徹教授の指導学生である柿澤翔さん (広島大学大学院理学研究科特別研究学生、日本学術振興会 特別研究員(DC1)、愛媛大学大学院理工学研究科 D2) が研究発表優秀賞を受賞し、最終日におこなわれたクロージングセレモニーで表彰されました。発表タイトルは「A1 に富む Superhydrous phase B の単結晶構造解析」であり、井上徹教授及び栗林貴弘東北大准教授の指導のもと行われた研究です。本賞は同学会中に口頭発表・ポスター発表を行った学生に対して 10 名の審査員による審査が行われ、優秀な発表を行った 4 名が選出されました。

尚、日本鉱物科学会は、ともに長い歴史を持つ日本鉱物学会 (1955 年設立) と日本岩石鉱物鉱床学会 (1928 年設立) が統合され、2007 年に設立されました。2016 年からは一般社団法人化され、会員約 1000 名が野外調査、実験、分析、数値計算など様々な手法を用いて、地球や惑星を構成する鉱物や岩石の構造・特性や成因などの解明を目指しています。



写真 柿澤さん (左) と土山鉱物科学会長 (中央)  
右は同じく受賞者の 1 人の門林さん (愛媛大学)